

若手教員に聞く！ 現場の実態(2)

～教師は本当にブラックなのか？～

伊藤 貴昭 (明治大学文学部)

飯塚 和幸 (明治大学附属中野中学・高等学校)

1. 企画の実施にあたって

2021年4月に「若手教員に聞く現場の実態 ～教師は本当にブラックなのか？～」と称して、明治大学OBの若手教員を中心に、現場の実態をお話いただいた。本企画の趣旨は、昨今、話題になっている、いわゆる「教員のブラック化」と「教員不足」に対して、現場の生の声(姿)を、これから教員を目指す学生の皆さんに届けたい(知ってもらいたい)からである。

一部の報道等では、教員の長時間勤務や生徒・保護者対応の複雑化、同僚間の連携の難しさなどが報じられ、「教員＝ブラック」が定着しつつある。しかし、実際の現場では、教育現場でしか味わえない、充実感、達成感、やりがいなどもある。

前回(昨年度)に引き続き、明治大学OBの若手から中堅の教員の協力を得て、『若手教員に聞く現場の実態～教師は本当にブラックなのか？～ 第2弾』と題した、パネルディスカッションを行った。企画にあたっては、教職課程を履修している学生から、あらかじめ質問事項を募集し、質問の多い項目に関して、4名の方に回答していただいた。なお学生からの主な質問事項については以下に記している。

前回は、4名とも私立学校勤務の男性教員であったが、事後アンケートの要望を踏まえ、今回は、4名とも異なる校種や教科として、男女2名ずつの教員にご登壇いただくことができた。以下、企画の概要、質問事項、パネリストからの感想の順で報告する。

(飯塚和幸)

2. 企画の概要

① 開催日時

2022年3月25日(金) 16時～18時

② 開催方法

Zoomによるオンライン開催

司会・パネリストのみカメラオン、その他の参加者は任意とした。

③ 参加者数

当日参加者総数(35名)

—明治大学教育会会員 2名(申し込み人数)

—学生および科目等履修生 33名(事後アンケート回答数)

※事後アンケートの回答数

④ パネリスト

- 海老澤 薪先生 2006年農学部卒 東京都・公立（理科）
高原 光昭先生 2009年文学部卒 東京都・私立（国語）
中尾 愛先生 2013年国際日本学部卒 つくば市・公立（英語）
上原 達也先生 2014年文学部卒 千葉市・公立（社会）

⑤ 内容

- 1) 挨拶
- 2) パネリスト自己紹介
- 3) パネルディスカッション ※事前アンケートにより質問事項を収集
- 4) 質疑応答

3. 学生からの質問事項(抜粋)

①きっかけ

- 教師を志望した理由・教師になった理由

②採用関係

- なぜ私立／公立を選んだか。その違いは？
- 教員採用の詳細について
- 私学適性検査について
- 採用する際にはどのような点を見ているか？
- 教師になる前にしておいてよかったこと／教師になる前にやっておけばよかったと思うことは何か？

③待遇関係

- 私立教員の給料、残業代等について
- 育休制度と職場の理解について
- 長期休暇中の出勤状況と業務内容について
- 働き方改革の進行具合

④部活指導について

- 負担感について
- 専門外教科の担当有無について
- 部活の顧問について
- 部活指導の時間・日数・休日の扱い

⑤教科指導について

- 授業準備の時間
- 私立学校と公立学校での教え方の違い
- 研修制度について

⑥保護者・生徒対応について

- 保護者対応の苦勞
- 生徒との距離感、生徒指導で苦勞していること
- 担任はいつからやっているか、苦勞したこと

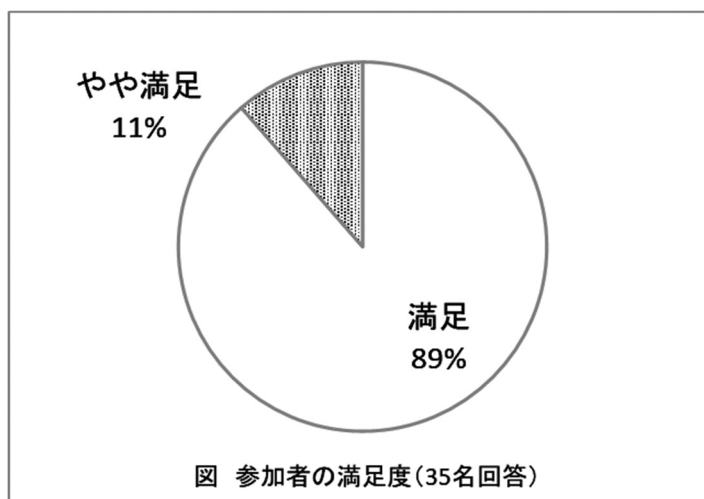
⑦その他

- 働きやすさ
- 自宅での仕事量
- ブラックなのかどうか

4. 学生からの声

学生アンケートの結果の概要は以下のとおりである。

①企画の満足度（満足、やや満足、どちらでもない、やや不満、不満）



②参加者の声

1) 参考になったこと

- ・ 待遇面や職場環境などリアルな声が聴けた
- ・ 私立、公立両方の先生方の考え方を知ることができたこと
- ・ 都内だけでなく、さまざまな地域の先生方がいて、その違いも感じられた
- ・ (会員) 学生の積極的な姿勢や、教師が関心の高い仕事だということを実感した

- ・働き方改革が進んでいることを聞いたこと
- ・教員という仕事のポジティブな内容を知ることができたこと
- ・部活動や保護者の対応について
- ・採用に関すること
- ・学校外の出来事にも関心を持つ必要があるということ

2) これからやってほしい企画

- ・今回のような教師の本音を知ることができる企画
- ・教員になって1年目のことについて詳しく知りたい
- ・公立高校の話
- ・授業づくりについて（興味の引き方など）
- ・管理職の先生の話
- ・一般企業に勤めてから教員になった方の話
- ・同一内容でもよいので、定期的な開催

5. パネリストから寄せられた感想

企画終了後に、パネリストの先生方から、それぞれ感想を寄せていただいた。以下、いくつか紹介する（企画者が改編しています）。

- ・現場の様子を話すことで、今までの教職生活を振り返る良い機会となった。
- ・他のパネリストの先生方からの話から、学校種や勤務地の違いによって、仕事の様子が異なり、新たな発見となり勉強になった。
- ・大学1、2年生も参加していることに意識の高い学生が多いのだなと驚いた。
- ・教師がブラックだと言われ、そもそも教職を選択しない学生が多いと思うが、そういった学生の中にこそ、現実の社会がよく見えていて、教員として活躍してほしい人材がいるのかなとも思う。教職にそもそも関心がある学生だけでなく、そういった学生が興味を持ち、教職を取ってみよう、採用試験を受けてみよう、と思える施策があるといいなと思った。
- ・教師という仕事について、同志である先生方とオープンに語らうことのできた時間だった。忙しく過ごしてしまう年度末のタイミングで、ゆったりと対話を重ねることで、自然と笑いがこみあげた。
- ・日々の仕事に関して言葉にして掬い出すことで、改めて教員としての幸せに思いを巡らせることができた。
- ・学生さん達が、教職に対してどのような疑問質問を持っているのかを知る良い機会になった。
- ・私立や他県で勤務経験のある先生方の考え方なども聞くことができた点が新鮮だった。
- ・公立私立の違い、自治体により、同じ教職ではあるものの感じていることは異なり、パネリストとしてお話しをさせていただきつつも、他の先生方のお話しを聞くことがとて

も楽しかった。

6. 最後に

2021年3月に実施した「若手教員企画」は、私立学校にお勤めの先生方にご協力いただき、盛況のうちに終了した。参加者からの感想には、教員という仕事に就くことの具体的なイメージがわいた、教員としてのやりがいを知ることができたなど、ポジティブなものも多く含まれていた。一方で、公立学校に勤めている先生の話も聞きたい、女性の先生の話も聞きたいなどの声も多くあがっていた。今回の「若手教員企画第二弾」はそれらの声を踏まえ、多様な先生方にご登壇いただくことを目標に、お声がけし実現した企画である。

企画の進行については、初回の企画と同様の形としたが、それでもやはり現場の先生の声に勝るものはなし。今回の第二弾も多くの子参加のもと活発な意見交換がなされた。教員という仕事は、どの学生にとってもこれまでに最も多く接した経験の多い仕事でもある。しかし、それが大学の先輩の声として語られることで、実感の伴ったものになるのは間違いなく、こうした企画が教員を志す一つの支え、きっかけになっていくことを確信している。この場を借りて、ご登壇いただいた先生方に感謝の意を表したい。

今後、「若手教員企画」については、新たな企画も含め継続して実施していきたいと考えている。今後も引き続き、会員の皆様からのご協力をお願い申し上げ、まとめとしたい。

(伊藤貴昭)